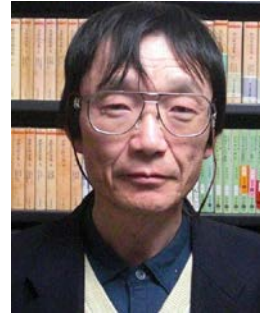


研究タイトル:

1920年代～1940年代における文学状況



氏名: 宮口典之 / MIYAGUTI Noriyuki E-mail: miyaguti@gifu-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 修士(文学)

所属学会・協会: 横光利一文学会、日本近代文学会東海支部

キーワード: 横光利一、表現、日本と西洋

技術相談
提供可能技術:

- ・当該時代に関する文学をめぐる諸問題
- ・当該時代における時代状況をめぐる諸問題
- ・一般教養としての近代文学

研究内容:

横光利一という作家の活動を中心として、文学及び文学を通して窺われる同時代の状況に考察を加えています。横光利一(1898-1947)は、1923年に『蠅』と『日輪』を発表して以来、精力的に作家活動をしていました。自作の発表とともに、「新感覚派」と称されることになる新しい表現を目指し、「純粹小説論」により新しい文学のあり方について提言をしています。「国語」との「血戦」さらにそれへの「服従」、といった言葉を残しているように、日本語による表現を真摯に追求していました。

また、西洋からの影響を積極的に受け入れ、受容の先頭に立っていました。けれども、1936年の渡欧体験を契機として、その後はいわゆる日本回帰の姿勢を示すようになっていきました。

その軌跡をたどるために、代表作とされる『上海』・『機械』・『旅愁』等をはじめとする主要作品の読解を試みることになる訳ですが、登場人物の思想・心理等の分析にとどまらず、背景となる時代・事件の反映のされ方、発表媒体の問題等、検討されるべき課題は数多くあります。

主たる対象は横光ですが、その検討は多くのテーマに開かれているのです。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	